

平成21年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

36

福岡県立須恵高等学校長 印

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)		
学校運営方針	豊かな心と社会性を培い、逞しく生きる力を育てるとともに、国家社会に貢献し得る知識・技術を身に付け、国際化に対応できる意欲ある人間の育成を目指す。⇒「須恵高教育力向上プラン」の推進。高い志をもち、自らの目標に向けて意欲的に挑戦していく生徒を育成する。				B	
昨年度の成果と課題	本年度重点目標		具体的目標			
「五省」を実践し、意欲的に活動できる生徒が、多教育ってきた。教育環境も整備され、ハード・ソフト面ともに条件は整ってきている。しかし、学力向上、進学実績、部活動の活性化は、まだ十分とは言えず、課題である。	1 「五省」・「五心」の伝統を継承しつつ、地域に信頼され期待される学校文化を創造する。 2 高い志と夢を実現させるため、文武両道、鍛えて伸ばす活気あふれる学校を目指す。 3 心豊かな人間を育成するため、積極的生徒指導の充実を図る。 4 本校への理解を得るため、関係機関との連携を強化し、広報活動の充実に努める。	(1) 「五省」や伝統行事等を大切にしつつ、芸術鑑賞会や地域に密着した学校行事を充実させるとともに、生徒の自主的な活動を促進し、自信や誇り、帰属意識を高める。 (2) 進路ガイダンスの充実や適切な進路情報の提供、授業規律の確保や自主的学習習慣の確立、特別活動や部活動の活性化など、生徒の自主・自律の意識高める進路指導を行う。 (3) 学校行事や特別活動などの指導計画や指導方法の工夫・改善を行い、生徒の個性を生かし意欲を高める積極的な生徒指導を行う。 (4) 学校説明会・出前授業・地域行事への参加等、地域との連携強化を図るとともに、広報紙やHPによる情報提供等、積極的な広報活動に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	
企画 情報管理 画 研 修 部 広 報	企画管理	P T A 総会と進路講演会等の同時開催を行い、出席率向上を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会の参加者は昨年度より57名増加、総会は22名増加、懇談会は48名増加した。次年度は早めに通知し、より多くの参加を促したい。 ・小学生との交流会について地域で発表する機会があり、アピールにつながった。次年度も地域の要望に応えたい。 ・来年度より各個人毎のPC配付に伴う、個人情報のセキュリティの問題等共通理解を図りたい。 ・可搬型PCの積極的活用を図りたい。 ・HPの充実や新しいHPの形態への移行がスムーズに行えるような職員の研修等を行いたい。 	
		P T A 各委員会行事の企画を支援する。	A			
		P T A の文化祭参加の支援する。	A			
	地域との連携	小学生との交流会を活性化する。	A	A		
		教育環境の整備	整備の必要な箇所を調査し、関係部と連携しながら改善する。	B		B
		情報管理	情報機器の積極的な活用	セキュリティ問題について生徒職員の意識を高める。		B
	H P の行事毎の更新		本年度リース更新に伴い、新しいパソコン及び情報機器が導入されるため、職員に向けた研修会を行う。	B		
			行事毎に写真や文章の更新を行う。	B		
	画 研 修	教科指導力の向上のための授業改善	携帯メールの活用を図る。	C		B
			2学期に授業参観週間、研究授業週間を実施し、授業改善を推進する。	B		B
			授業担当者と参観者が共通理解して研究授業に臨めるよう、事前協議会を実施する。	B		
		校内研修・校外研修の推進	保護者等に授業を公開し、多面的に授業評価を行う。	B		
職員から広くテーマを求め、ニーズに即した校内研修を実施する。			B			
特別支援教育に関する職員研修を企画し、実施する。			B			
人権教育の充実	教育センター等の研修への参加を積極的に促す。	C	B			
	人権教育HRの内容の検討を深め、工夫・改善に向けての情報整理を行う。(年間3回の人権教育HR)	B				
	全ての教育活動を通して、人権教育に対する生徒の意識の高揚を図る。	B				
	班会議、学年会議等を含めた職員研修を充実させる。(年間4回以上の職員研修会)	B				
部 広 報	中学生、中学教員、保護者、地域への情報提供	中学生体験入学に300名以上参加できるように内容の充実を図る。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「一日体験入学」の実施時期を変更したものの大きな変化は見られなかった。 ・ポスターの作成は、学校パンフレットで十分であるため必要ないと思われる。 ・多くの先生方に携わっていただく必要はあるが、専任の職員において広報活動を行った方が効果的であると考えため、人員配置に考慮する必要がある。 ・広報活動には映像・画像が効果的であるため、職員が撮影するだけでなく、業者に依頼した方がよい。 	
		中学校訪問を年4回行う。	B			
		中学生、保護者、地域の方々へ本校訪問を積極的に呼びかける。	B			
	P T A 広報委員会との連携	進路説明会、出前授業の要望を全て受け入れる。	A			
		広報委員との情報交換を積極的に行い、円滑な活動を支援する。	B			
		広報誌コンクールの入賞を目指す。	B			
広報資料の充実	須恵高ニュースを適時発行する。	B	B			
	学校案内の内容を充実させる。	B				
	学校紹介ポスターを作成し、配付する。	C				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題		
学 事 部	学習指導	授業規律の確立と授業内容の充実 (考査素点平均の遵守 85%以上)	チャイムと同時の始業、授業前後の挨拶、積極的な授業態度など意欲的に学習に取り組む姿勢の育成	A	B	・出席状況は、担任、学年を中心とした指導により、更に改善し、退学・転学・長欠の生徒も大幅に減少している。これを次年度も継続させたい。 ・学習指導は、取組は前向きであるものの、教員間の指導力の差、意識の差により、不十分な面もあった。次年度に向けて、生徒の指導に対する職員間の共通認識を図り、実施方法や取組方を検討する。 ・平成24年度からの新学習指導要領の先行実施と合わせて、生徒の現状に応じたカリキュラムを検討していく。	
			予習・課題等の指導を通じた授業に臨む姿勢の育成	B			
			互いの授業を参観することによる授業方法の工夫・改善	B			
			シラバスの改善と活用方法の検討	C			
			授業改善アンケートを活用した授業内容等の改善と活用方法の検討	B			
	学習習慣の定着 (自主学習時間2時間以上) (追考査対象・各学年10名以内)	課題の実施方法等、各教科による学習時間定着に向けた取組の検討 予習、課題の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動 学習時間調査による学習習慣の把握と改善に向けた指導 教務自学セミナーの実施	課題の実施方法等、各教科による学習時間定着に向けた取組の検討	B			B
			予習、課題の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動	B			
			学習時間調査による学習習慣の把握と改善に向けた指導	B			
	出席状況の把握と改善 (年間出席率98%以上) (退学・転学者数計8名以内)	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立 遅刻欠席者指導、家庭訪問、個人面談など学年と連携した取組	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導	A			B
			家庭と連携した基本的な生活習慣の確立	B			
			遅刻欠席者指導、家庭訪問、個人面談など学年と連携した取組	B			
	教育課程の検討	生徒の実態に即したカリキュラムの作成と検討	生徒の実態に即したカリキュラムの作成と検討	C			C
校内集中学習会等の校内における取組の積極的な運営支援			B	A			
進学指導の充実と進路実績の向上			校内集中学習会等の校内における取組の積極的な運営支援		B		
進路指導	進路情報提供の充実	冬季変更時間割・冬季課外の効果の実施方法の検討	A				
		小論文指導・模試・添削等の各学年における計画的実施	A				
		各クラス生徒・保護者・教員への進路情報の提供	C				
進路意識の高揚	進路意識の高揚	コンピュータの活用と、その活用法の職員研修会の実施	B		B		
		教員による予備校等の授業見学の実施	A				
		模試の計画的実施、模試結果の活用方法の工夫	B				
育 成 部	生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 部活動の活性化 入部率60%以上 (女子50%以上、文化部20%以上) 生徒会活動の活性化	朝の門立ち指導、校内巡回、下校指導の実施		A	B	・次年度は、重点目標の徹底のため、職員間の共通認識を更に図っていききたい。 ・部活動入部率の更なる向上を目指し、本年度改善して成果があがった点を充実させていきたい。また、各部活動単位で積極的に地域行事へ参加する体制づくりに取り組みたい。 ・生徒会活動において、他校との交流を積極的に実施するとともに、交通安全を含めた安全啓発活動を実現したい。 ・セミナー学級合宿においては、本年度の新型インフルエンザによる日程変更を含めた反省点を次年度に活かし、実施時期を含め、より成果があがるように計画していきたい。
			重点目標を設定し、職員間の共通理解を図った指導		B		
			新入生への部活動説明会の工夫・改善		A		
			学期に2回以上の部活動顧問会議・部長会・部活動生集会の実施		B		
			部活動生による地域行事への積極的参加やボランティア活動の実施	C			
	安全指導の徹底	安全指導の徹底	生徒会執行部や各種委員会の定例会議の実施	B	B		
			他校の生徒会との交流	C			
			年2回の自転車安全点検、交通安全講話やマナー指導の実施	B			
	セミナーハウスを活用した生徒研修	セミナーハウスを活用した生徒研修	生徒会による交通安全啓発活動の実施	C	B		
			迅速な不審者情報等の提供	B			
			2年生は1泊2日の学級合宿を実施	A			
	保健・美化 (1)	自主的・自発的な清掃活動	1年生は2泊3日の学級合宿を実施	C	B		
教職員へのガイダンスや指導生徒のオリエンテーションを充実			B				
生徒指導統一HRを通じたゴミの分別及び廃棄要領の周知徹底			B	B	・昨年度よりも校舎は綺麗になっている。階段の一階奥がどの区域も不十分であった。ペットボトルの分別ができていない。またバックジュースの飲み歩きで廊下の汚れも目立った。美化委員による呼びかけを徹底させたい。 ・生徒の身体の健康・安全に関する活動は、保健委員会を中心に良くできていた。保健だよりも予定通りに発行できた。昨年度からの課題であるが、この保健だよりの有効活用について工夫が必要である。		
ポスター等の掲示及び美化委員の清掃後の巡回と美化コンクールの実施			B				
生徒指導統一HRを通じた古紙回収方法についての確認			A				
美化委員会を通じた古紙回収リサイクル状況についての継続的な報告			B				
古紙回収やリサイクルに関するポスター等の募集や掲示など、環境保護の啓発			C				
生徒の心身の健康・安全に関わる情報提供と組織的な連携の強化	生徒の心身の健康・安全に関わる情報提供と組織的な連携の強化	健康診断結果について事後指導の実施	A				
		各種健康診断の結果を受けて、教育活動上必要な情報の職員への提供	A				
		クラス・学年別の保健室利用者状況を毎月、年間計12回の呈示	A				
		保健室入室記録簿の職員室持ち上がり継続と職員への閲覧呼びかけ	A				
校外研修活動への積極的な参加後、研修内容の全校生徒への還元	校外研修活動への積極的な参加後、研修内容の全校生徒への還元	心身の健康安全に関する内容を記載した保健だよりを年間計10回発行	A	A			
		健康診断結果について事後指導の実施	A				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	
育成部	保健・美化 (2)	スクールカウンセリングや個人面談等、教育相談で得た情報の共有	個人面談時間を確保し、学期に1回、年間3回の個人面談月間実施	B	B	・カウンセリングについては生徒・職員・保護者を含めて、多角的なサポートができた。本校では心の不安定な生徒は減少傾向にあり、カウンセリングを受けた生徒のほとんどが、自分の力で解決へと向かっている。次年度の課題は、カウンセラーと保健部のコミュニケーションを深めるために、合同ミーティングを行いたい。	
			年間10回のスクールカウンセリング実施	A			
			悩み相談箱の管理及び相談があった場合の対応	B			
			個人面談などで得られた情報を職員間で共有するため拡大学年会を実施	A			
			中高連絡協議会を通して新入生に対し指導上留意が必要な情報や、スクールカウンセラーや研修部と連携したカウンセリングに係る資料の提供や研修会の実施	B			
	図書	身近な図書館を目指し、図書館利用者数と本の貸し出し数の増加	図書館内の書架の配置や掲示物を工夫し、開放的な雰囲気を作り出す。	B	B		
			各クラスにおいて図書委員による呼びかけを積極的に行う。	B			
			朝読書のための本の貸し出しを推進する。	A			
			館報「パピルス」の年5回発行。掲示板「クローバー」の年4回更新を実施。	A			
			生徒による問屋訪問を年3回実施。	A			
第一学年	広報活動の活性化 効果的な選書の実施	興味関心の高い本や看護コースや小論文対策用図書の整備を行う。	B	A			
		図書委員会活動の活性化	B				
		定期的な委員会の開催。朝読書指導の強化。文化祭への積極的参加。図書部独自の催しの企画・運営。	B				
		チャイム席の厳守。開始時・終了時の元気な挨拶の徹底	B				
		基礎基本を理解させられる授業や個々の理解度に応じた授業内容の工夫	B				
年部	第二学年	学習指導 授業規律の確立 基礎基本の理解 (家庭学習時間 週20時間以上)	予習を中心とした家庭学習の習慣を定着させる指導の徹底	C	A	・2学期から少しずつ時間に対する意識が緩んできた。いろんな行事等で時間厳守の心掛けを指導する。 ・家庭学習が定着できるよう課題等を出してはいるが、なかなか定着していない。各教科連携を取って動機づけをし、提出物の徹底を学年統一して指導する。 ・2学期までの遅刻、欠席は少なかった。しかし、3学期になってから、朝課外の遅刻が増えてきた。強い身体をつくるよう指導し、遅刻欠席指導を強化する。 ・規範意識、道徳観の指導が必要である。 ・コース毎の進路指導を工夫し、早い段階から受験への動機づけを行う。また、小論文対策を行う。	
			各教科における課題提出指導方法の確立	A			
			生徒指導 (年間皆勤者数160名以上)	挨拶・掃除の徹底。基本的な生活習慣を確立する指導			B
			遅刻、欠席、怠学の防止のための指導と家庭連絡の徹底	A			
			保護者面談、家庭訪問、中学校との連携等の早期対応	A			
	第三学年	進路指導 進路目標の明確化 職業意識の高揚	部活動入部率70%以上	A			
			各クラス進路面談の実施、学年で統一された面談資料の充実	B			
			英語に重点を置いた夏季学習合宿・土曜セミナー・放課後課外の充実	A			
			「職業探索講座」の事前・事後指導の工夫	A			
			始業時間厳守や大きな挨拶、居眠り禁止など、授業規律の徹底	B			
部	第二学年	学習指導 (各教科課題提出率100%) (家庭学習時間 週20時間以上) (追試対象者5名以内)	各クラスにおける課題提出状況の把握と課題提出協力体制の整備	A	A	・始業前の授業準備、落ち着いた状態で授業を待つ指導が不十分であったため、学年と教科担当との連携を強化して指導にあたる。 ・家庭学習時間が伸び悩んでおり、次年度、学習時間を伸ばすための個別指導が必要である。 ・集団行動に中だるみが見られたが、スキー研修旅行を機会に改善した。しかし、次年度は最上級生としての立場を踏まえて、更に改善向上が課題である。 ・頭髪や身だしなみに乱れが目立つようになったため、基本に立ち返って、指導を徹底する。	
			英語学力向上を目的とした英作文テストの実施	A			
			小論文の力量向上を目的とした国語授業との連携と小論文模試の実施	A			
			生徒指導 (年間皆勤者数140名以上) (出席率98%以上、遅刻率1%以下) 規範意識の高揚	欠席者の家庭連絡の徹底、欠席・遅刻者指導の実施			A
			各クラス個人面談の充実	A			
	第三学年	学習指導 (家庭学習時間 週30時間以上)	5分前行動、挨拶、言葉遣いや身だしなみ等についての指導の徹底	B			
			保護者面談、家庭訪問、中学校との連携等の早期対応	A			
			保護者を含めた進路説明会・進路学習会の実施	B			
			大学訪問、進路相談会等への参加	A			
			校内集中学習会、特進を主体とした少人数放課後課外の充実	A			
第三学年	生徒指導 基本的な生活習慣の確立 規範意識の高揚	予習を中心とした家庭学習の習慣化・課題提出の徹底	B	A			
		進学に必要な学習時間や入試問題の内容・レベルを周知徹底する。	A				
		自学室や教室の環境整備	A				
		集会等を通じて授業に集中する姿勢を育成し、安易に遅刻・欠席をさせない。	B				
		学校行事等に積極的に関わらせ、自主性リーダーシップを育成する。	A				
第三学年	進路指導 大学合格目標数(国公立大20名、西南学院大学20名、福岡大学100名)等	5分前行動、挨拶、言葉遣いや身だしなみ等について指導を徹底する。	B				
		センター試験向けの早期対策や小論文対策・指導を推進する。	A				
		学習意欲向上のための進路説明会や講演会を計画的に行う。	A				
		進路別の個別指導を計画的に行う。	B				
		担任による個人面談の充実とクラスの枠を超えた面談体制を継続する。	A				